

# 支援プログラム・メニューの開発 Ⅱ

相原 真樹

一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会

立岡 学

一般社団法人 パーソナルサポートセンター

高木 剛

厚生労働省（コーディネーター）

# 1. 講義のテーマと目標

## <テーマ>

協力事業所の発見・開拓について、実践事例を共有して、具体的な方法や抑えておくポイントなどを学ぶ。

## <目 標>

- ① 地域の協力事業所となり得る、またなっ  
て欲しい企業などを複数リストアップできる。  
また、個々の訪問先にアプローチする具  
体的な方法・手順を明確にイメージできる。
- ② 支援メニューのバリエーションを広く持つこ  
との効果・効率性を理解する。

## 2. 講師紹介

一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会 相原 真樹

### (就労準備支援事業の楽しさとは?)

企業と相談者が喜ぶプログラムを自由な発想で作り上げられること。型がないだけに面白い。逆に難しさもあるかもしれないが・・・

### (協力事業所などへの訪問で一番大切にしていることは?)

生活困窮者自立支援制度についてとそれに対する自分たちの取り組み内容をしっかりと説明をし、その上で企業の事業概要と抱えている課題についてヒアリングを行うこと。「ヒアリングに伺います。」とアポイントを取る。

## (就労準備支援事業の楽しさとは？)

- ・ 利用者の変化を目の当たりにできること。
- ・ 準備を利用し、何とか1歩踏み出すことができ、就労をした卒業生が『辛くて苦しいけれども、がんばっています！』と報告にきてくれたときに感動した。準備支援の支援員として良かったと思う瞬間です。

## (協力事業所などへの訪問で一番大切にしていることは？)

- ・ とにかく「Try & Error」の精神で利用者が失敗する事を恐れず、何かあったら支援者が「頭を下げる」と割り切ること。
- ・ 利用者や体験実習生の特性や情報をうまく事業者伝えること。
- ・ 支援者側が常に創造性を持ち、事業者に向けて提案出来ることはないか意識し続けること。

### 3. 就労体験の場所の発見・開拓の具体的な方法について

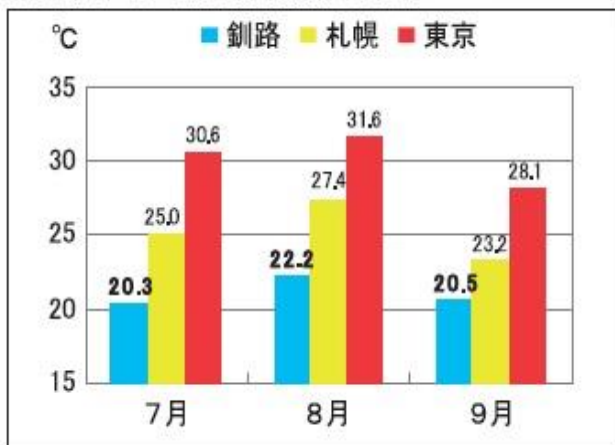
(相原さんからの説明)



- 面積 1,362平方キロメートル(東京都の半分以上の面積)
- 総人口 177,104人(2015年3月31日時点)
- 保護率 53.6パーミル(被保護人員:9,495人)
- 北海道では、札幌市・旭川市・函館市に次ぐ第4の都市と言われているが、第5の都市・苫小牧市との差が縮まっている。

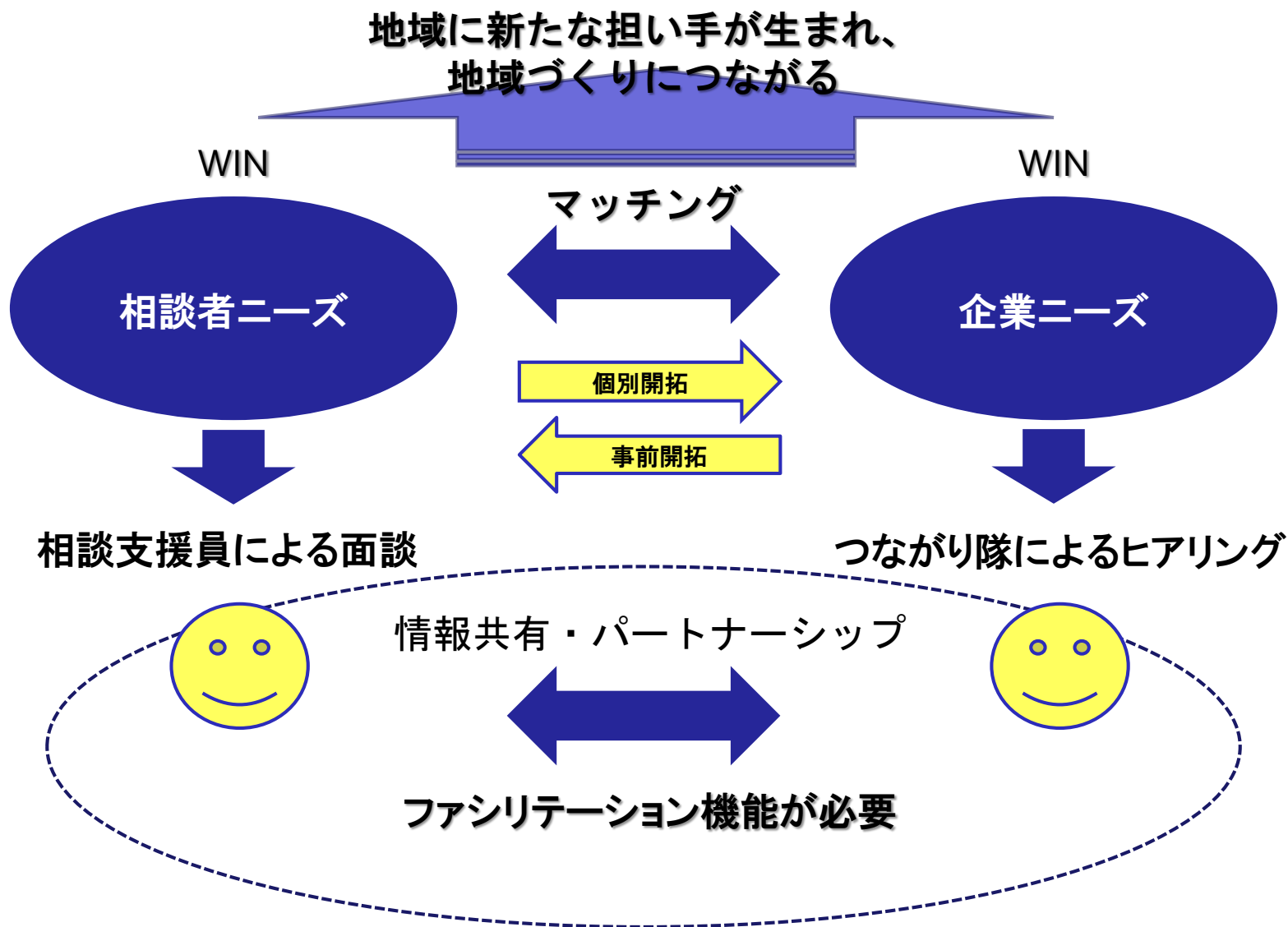


●過去3年 7~9月の日最高気温の平均





年度	内容
平成17年	釧路市生活福祉事務所が、母子世帯の母親を対象にしたヘルパー資格取得支援に取り組み、「自立支援プログラム」がスタート。
平成24年	一般社団法人釧路社会的企業創造協議会を設立し、釧路市より緊急雇用創出推進事業を受託。「社会的居場所づくりと連動した雇用の創出研究事業」を実施する。
平成25年	緊急雇用推進事業で創出された事業を実施するため、釧路市より「就労移行型インターンシップ事業(整網作業)」を受託。合わせて、釧路市と北海道より「自立相談支援事業」のモデル事業も受託した。また、厚生労働省・社会福祉推進事業「生活困窮者等への中間的就労(非雇用型)の場のモデル創出事業」も実施。
平成26年	引き続き、釧路市より「就労移行型インターンシップ事業」、釧路市・北海道より「自立相談支援事業(モデル事業)」を受託。さらに「就労準備支援事業(モデル事業)」も受託した。
平成27年	生活困窮者自立支援制度として、釧路市より「就労移行型インターンシップ事業(被受給者就労準備支援事業)」・「就労準備支援事業」、釧路市・北海道より「自立相談支援事業」を受託。
平成28年	釧路市より「就労移行型インターンシップ事業(被受給者就労準備支援事業)」・「就労準備支援事業」、「一時生活支援事業」、釧路市・北海道より「自立相談支援事業」を受託。







- 当協議会の平成27年度新規相談者数と再相談者数は約400名であった。
- 相談者全体の33%が就労を希望している。
- 一番多い相談者の年代は60代で、50歳以上が全体の57%を占める。
- また、30～40代の相談者には、社会経験に乏しい方が多い。



以上のことから、「年齢」や「社会経験の乏しさ」が原因でハローワークの職業紹介だけでは就労することが困難な方が多く、事業所と直接の連携・アプローチにより、以下のような段階的な就労支援の仕組みが必要となった。また、無料職業紹介所の申請・認可を取った。



## ステージ 1

### ・ 当協議会内における内職作業、協力企業での実習

- ・ 職員に見守られた中で成果報酬型の内職作業に参加、あるいは協力企業にて1日500円～1,000円程度報酬で実習に参加し、日常生活自立・社会生活自立を目指す。

## ステージ 2

### ・ 協力企業にて見学・体験

- ・ 日常生活自立・社会生活自立が図れてもいきなり働き始めるのではなく、まずは実際の仕事を見学し、その上で体験を行う。体験期間はその都度設定を行う。

## ステージ 3

### ・ 短時間就労

- ・ 体験の結果、双方が希望すれば雇用契約を結び働き始めるが、ここでもいきなりフルタイムではなく、半日勤務、あるいは3日前後の勤務からスタートする。

## ステージ 4

### ・ 長時間就労（一般就労）

- ・ 短時間労働を経て双方の確認が取れば、長時間勤務（フルタイム）に切り替え、就労自立を果たす。



### 高齢者の運動用具製作依頼 生活保護受給者の自立支援

#### 道内で新たな取り組み

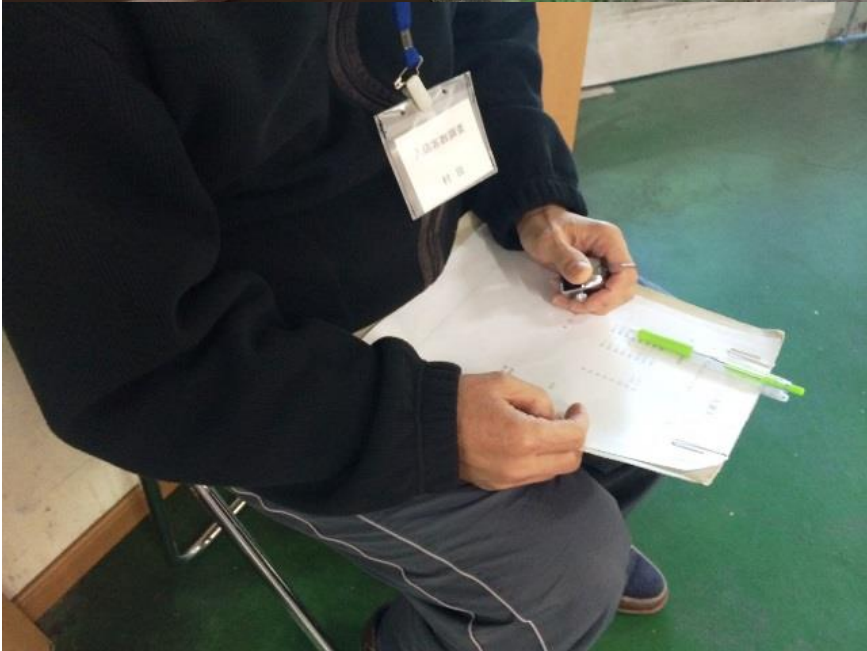
【仙台 仙台市】「高齢者の運動用具製作依頼」は、生活保護受給者の自立支援の一環として、仙台市で新たな取り組みがスタートした。この取り組みは、高齢者の運動用具の製作を依頼し、生活保護受給者の自立支援に貢献している。仙台市では、高齢者の運動用具の製作を依頼し、生活保護受給者の自立支援に貢献している。仙台市では、高齢者の運動用具の製作を依頼し、生活保護受給者の自立支援に貢献している。



仙台市では、高齢者の運動用具の製作を依頼し、生活保護受給者の自立支援に貢献している。仙台市では、高齢者の運動用具の製作を依頼し、生活保護受給者の自立支援に貢献している。仙台市では、高齢者の運動用具の製作を依頼し、生活保護受給者の自立支援に貢献している。











流 れ	内 容	使用書類
1. 企業ニーズをキャッチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人的ネットワーク等の<b>つながり</b>から企業ニーズの情報が入る（一番多い）</li> <li>・既存協力企業からの紹介</li> <li>・相談者が希望する求人の企業へアプローチ</li> <li>・求人誌掲載企業へアプローチ など</li> </ul>	
2. 企業訪問しヒアリング・見学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困窮者支援制度の概要から始まり、当協議会の取り組みを説明</li> <li>・企業の基本情報、課題、求人ニーズ等を聞き取る</li> <li>・双方のニーズを満たす方法について意見交換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業向け説明資料</li> <li>・ヒアリングシート</li> </ul>
3. 企業ニーズを満たす取り組みを提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒアリング結果を分析。</li> <li>・仕事の切り出しなども検討し、企画書、場合によっては覚書や仕様書などを作成。</li> <li>・企画内容を書面で「見える化」することによって、進め方・やり方の共有が図られ、実行する前に思い違いや懸念事項などに気付くことができます。また、段取りが明確になり、実現の可能性とスピードが高まります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・覚書</li> <li>・仕様書</li> <li>・ボランティア保険のご案内</li> <li>・プログラム企画書</li> </ul>
4. 職員による体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談者を紹介する前に、まずは<b>就労準備支援員が体験</b>してみる。</li> <li>・体験した結果をみて修正</li> </ul>	
5. 該当する相談者が発生した時点で企業へ連絡・見学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が日程調整し、同行の上で見学。</li> <li>・体験等の次の段階へ移る際、<b>その場で意思決定をせず</b>、必ず場所を変え時間を置いてからご本人へ意志確認を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労準備支援プログラム計画書</li> <li>・確認書</li> </ul>



- 仕事外でも地域活動に参加し、仕事にも生かせる“つながり”を作ること。
- 人が雇えなくて困っている企業が取り組みやすい。人件費削減、経費削減を望んでいる企業は、就労準備＝安い労働力と捉えてられてしまう傾向がある。
- あえて企業へ期待を持たせない。「いい人いないですか？」と聞かれても、「いい人はうちに来ません。だけど、人はいるので一緒に工夫しましょう。」と答える。
- 一人で行っている仕事内容から、誰でもできる業務内容を切り出す発想を持つ。
- まずは職員が体験してみたりして、少しでもリスクを回避できるように一つ一つ急がずクリアしていく。
- 市場原理と福祉のバランスをいかに取るか。雇用契約が伴わない＝指示命令がない、成果への責任を問えないことの理解を促しつつも、いかに企業ニーズを満たせるように工夫をするかがポイント。
- 参加者の変化・成果を企業に伝え、取り組む福祉的意義の共有も図る。



# 大切なポイント

## ①体制面

- ✓ 相談者ニーズ（相談支援員）と企業ニーズ（就労支援員・準備担当者）の情報共有と相互サポート。

## ②計画性

- ✓ 段階的な就労支援と個別開拓・事前開拓。分類1と分類2の視点で一覧管理。

## ③専門性

- ✓ 企業ニーズをキャッチ。相談者ニーズと双方のニーズを満たす方法を企業と意見交換。
- ✓ 企画書で協力企業と支援メニュー詳細見える化。

## ④継続性

- ✓ 段階的な就労支援に一般就労後のステージ設定。
- ✓ 相談者とのつながりだけでなく、企業との関係づくりは新たな就労・体験の場の確保にも寄与。

# 4. 就労実習の場所の発見・開拓 の具体的な方法について

(立岡さんからの説明)

# 仙台市の概要

仙台市 行政区 地図



西には奥羽山脈、東に太平洋を望む宮城県第一の広さの都市で、市域の約6割が緑地となっています。

## ○人口は宮城県(約233万人)の46%

・人口	約107万人
・世帯数	49.5万世帯
・世帯当たり人数	2.2人／1世帯
・転入人口	130人／1日
・転出人口	126人／1日

## ○東日本大震災の被災状況

### 《被害状況》

・人的被害状況	997人死亡 (災害関連死261人含む)
・建物被害状況	
全壊	30,034件
大規模半壊	27,016件
半壊	82,593件
一部半壊	116,046件

## ○第3次産業が中心「支店経済・仙台」

・事業所数	45,845事業所
・市民1人当たり所得	358万円
・経済成長率	実質10.4%

(仙台市ホームページより)

# 現在のPSC支援事業概要図(平成28年4月1日現在)

就労サポート

就労支援相談センター「わっくわあく」  
(困窮被災者等向けの就労マッチング)

生活困窮者自立促進支援モデル事業

- 生活困窮者自立相談支援事業
- ・ 仙台市生活自立・仕事相談センター
  - ・ 宮城県南部自立相談支援センター  
仙南事務所／宮城黒川事務所
  - ・ 多賀城市自立相談支援事業

中間就労支援「カフェクオーネ」  
(困窮被災者の就労訓練事業)

就労準備支援センター「わあくしょっぷ」  
(困窮者向け就労準備)

・ 仙台市  
・ 宮城県

- 生活困窮者就労準備支援事業
- ・ 仙台市就労準備支援センター
  - ・ 宮城県南部就労準備支援事業

トウインクルたがじょう  
(H27年11月開所)

中間就労支援  
シニアと若者ワークサロン「こらぼ」

コミュニティ・ワークサロン「えんがわ」  
(仮設住宅入居者向けの生きがい就労の場  
復興定期便の封入作業等実施)

(移行)

生涯現役・生きがい就労支援センター  
(65歳以上の高齢者の就労支援)

安心見守り協働事業(伴走型生活支援事業)  
(仮設住宅入居者への見守り・福祉的サポート)

仙台市  
住まいと暮らしの再建サポートセンター  
宮城県  
被災者転居支援センター

総合相談センター「わんすてっぷ」  
(困難被災者等向け生活相談)

- 生活困窮者自立相談支援事業
- ・ 仙台市生活自立・仕事相談センター
  - ・ 宮城県南部自立相談支援センター  
仙南事務所／宮城黒川事務所
  - ・ 多賀城市自立相談支援事業

福祉サポート

トータルサポート

H23.6月11日

H24.6月

10月12日

H25.7月

11月

H26.4月

7月

H27.4月

6月

11月

# わんすてっぷにおける就労準備～就労支援の連携

## 自立相談支援(生活相談・就労相談)

### 就労準備

- ・その人の課題を見極める
- ・「メンバー」であること
- ・本人と準備の支援員及び自立相談支援員が、時間経過の中で変化を共に見つけ、次のステップに進む時機を見定める

### 職業体験実習

- ・5日～20日の体験
- ・比較的気軽な第一歩
- ・事業所から客観的な指導や意見をいただける
- ・自信が無い人のハードルを低くする

### 就労支援

- ・本人の意向や条件を確認
- ・事業所の情報を提供しながら働き方のイメージを共有する
- ・職業体験実習や就労訓練等の利用を調整する

### 就労訓練

- ・現場体験～実践まで本人の意向、状況、事業所の条件に基づいて実施
- ・一定期間(6か月程度)の継続で本人が就労に向けて意欲的でいられるか

# 就労準備プログラムの予定表

2015年 4月 「わんすてっぷ」就労準備支援センター プログラム予定表

2015・4・1 【様式-1】

日	1(水)				2(木)				3(金)												
	施設内	施設外			施設内	施設外			施設内	施設外											
	スキルアップ	作業	①	②	スキルアップ	作業	①	②	スキルアップ	作業	①	②									
午前	お問い合せ先: 一般社団法人パーソナルサポートセンター 生活自立・仕事相談センター 「わんすてっぷ」就労準備支援センター	*PC講座(集合AM9:30/PM13:00) AM10:00~11:50/PM13:00~14:50 (内10:00~10:30/13:00~13:30自習) *各講座(集合PM13:00) PM13:00~15:00 *ソーシャルファーム(集合AM9:30) AM10:00~12:00/PM13:00~15:00 *内部作業(集合AM9:30/PM13:00) AM10:00~12:00/PM13:00~15:00				休講				PC講座	内部作業	ソーシャルファーム	ポスティング(ぼど)	内部作業	ソーシャルファーム	ポスティング(ぼど)					
午後	〒980-0802 仙台市青葉区二日町2-1木村オフィスビル7F TEL:022-796-1701					PC講座	内部作業	ソーシャルファーム	ポスティング(ぼど)	内部作業	ソーシャルファーム	ポスティング(ぼど)									
備考																					
日	6(月)				7(火)				8(水)				9(木)				10(金)				
	施設内	施設外			施設内	施設外			施設内	施設外			施設内	施設外			施設内	施設外			
	スキルアップ	作業	①	②	スキルアップ	作業	①	②	スキルアップ	作業	①	②	スキルアップ	作業	①	②	スキルアップ	作業	①	②	
午前		内部作業	ソーシャルファーム		PC講座	内部作業(男・女)	ソーシャルファーム			内部作業	ソーシャルファーム		PC講座	内部作業	ソーシャルファーム		印刷作業	内部作業	ソーシャルファーム		
午後	健康講座				PC講座	内部作業(男・女)	ソーシャルファーム			内部作業	ソーシャルファーム		PC講座	内部作業	ソーシャルファーム		ヨガ講座				
備考																					
日	13(月)				14(火)				15(水)				16(木)				17(金)				
	施設内	施設外			施設内	施設外			施設内	施設外			施設内	施設外			施設内	施設外			
	スキルアップ	作業	①	②	スキルアップ	作業	①	②	スキルアップ	作業	①	②	スキルアップ	作業	①	②	スキルアップ	作業	①	②	
午前	印刷作業	内部作業	ソーシャルファーム		PC講座	内部作業(男・女)	ソーシャルファーム		封入作業につき休講	内部作業	ソーシャルファーム		封入作業につき休講	内部作業	ソーシャルファーム	ポスティング(ぼど)	封入作業につき休講	内部作業	ソーシャルファーム	ポスティング(ぼど)	
午後	印刷作業	内部作業	ソーシャルファーム		PC講座	内部作業(男・女)	ソーシャルファーム			内部作業	ソーシャルファーム			内部作業	ソーシャルファーム	ポスティング(ぼど)			内部作業	ソーシャルファーム	ポスティング(ぼど)
備考					復興定期便封入PJ(搬入) 就労実践プログラム ふうどばんくパントリー作業				復興定期便封入PJ				復興定期便封入PJ 就労実践プログラム マンション清掃作業				復興定期便封入PJ				
日	20(月)				21(火)				22(水)				23(木)				24(金)				
	施設内	施設外			施設内	施設外			施設内	施設外			施設内	施設外			施設内	施設外			
	スキルアップ	作業	①	②	スキルアップ	作業	①	②	スキルアップ	作業	①	②	スキルアップ	作業	①	②	スキルアップ	作業	①	②	
午前		内部作業	ソーシャルファーム		PC講座	内部作業(男・女)	ソーシャルファーム			内部作業	ソーシャルファーム		PC講座	内部作業	ソーシャルファーム	ポスティング(ルチカ)		内部作業	ソーシャルファーム	ポスティング(ルチカ)	
午後		内部作業	ソーシャルファーム		PC講座	内部作業(男・女)	ソーシャルファーム		就活講座				PC講座	内部作業	ソーシャルファーム	ポスティング(ルチカ)		余暇講座			
備考					復興定期便封入PJ(搬出)				就労実践プログラム ふうどばんくパントリー作業				就労実践プログラム マンション清掃作業								
月	27(月)				28(火)				29(水)				30(木)								
	施設内	施設外			施設内	施設外			施設内	施設外			施設内	施設外			施設内	施設外			
	スキルアップ	作業	①	②	スキルアップ	作業	①	②	スキルアップ	作業	①	②	スキルアップ	作業	①	②					
午前		内部作業	ソーシャルファーム		PC講座	内部作業(男・女)	ソーシャルファーム		祝日のため休講				PC講座	内部作業	ソーシャルファーム						
午後	生活講座				PC講座	内部作業(男・女)	ソーシャルファーム							PC講座	内部作業	ソーシャルファーム					
備考					就労実践プログラム ふうどばんくパントリー作業				就労実践プログラム マンション清掃作業												



# 『わんすてっぷ』 就労準備支援センターの1日の流れとプログラム

二階	松川	國塚	富盛	田地	小定	伊藤	高橋	平間	重茂	室川
PC	PC	PC	PC	PC	PC	PC	PC	PC	PC	PC
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...



## プログラム名【朝のミーティング】

朝9:30までに通所。まずは決まった時間に決まった場所に集まる事で生活のリズムを整えます。ミーティングではその日の体調・気分を参加者一人一人が発表。自分の言葉で相手に気持ちを伝える練習をしています。最後に1日の目標も発表。自分のプログラムに真摯な気持ちで向かい合い就労自立を意識する一瞬です。

## プログラム名【施設外作業】 作業名 ソーシャルファーム

仙台市内の農地にて実践的に農作業を行います。耕作、収穫、販売とあらゆる作業に携わり、その人に合った役割を担い実践的な農業に取り組んでいます。恵まれた自然の中で命の源となる作物の栽培を通して、生きている喜びや働く楽しみを十二分に体感しています。農作業には実に様々な作業工程があり、ソーシャルファームは自分にできる事や得意な事・気づかなかった自分の能力など、新たな自分に出会える素敵なフィールドです。



## プログラム名【施設内作業】 作業名 手帳作業

手帳のが-付け、葉、アドレス帳の挟み込み、梱包、ラベル貼りといった一連の作業を行います。扱っている物が商品になるので、みんな丁寧に真心こめて作業にあたってます。開所間もないころからご協力いただいているポスティング業者より発注頂いています。



## プログラム名【スキルアッププログラム】 講座名 PC講座

その人のペースに合わせて自学自習形式で講座を進めていきます。PCの電源の入れ方からエクセル、ワード、パワーポイントといった実践的アプリケーションを使った練習まで、様々な段階の方が安心して取り組める一番人気の講座です。

# ■ 企業開拓について(事前開拓の場合)

## ① 情報収集

## ② 訪問

## ③ 求人登録/ 協力事業所契約

## ④ マッチング

# 就労

### 求人開拓

- 利用者のニーズ
- ハローワークの求人情報
- 求人誌の情報
- 人材不足の課題を抱える業界への聞き取り
- 関連機関からの紹介等

この情報をさらに

### 協力企業開拓

- 事業内容の情報(業務分解可能な業務、仕事内容か)
- 障害者雇用や過去の就労実績
- 人的ネットワークからの職場風土情報等

- 生活困窮者自立支援制度についての説明
- 「わんすてっぷ」利用者の傾向や特徴への理解を得る
- 就労準備支援センターの利用や具体的な就労支援による変化、意欲やスキル(ex.パソコン資格)の向上事例の紹介
- JOBカードを活用してのキャリア形成促進の紹介
- 成功事例と失敗事例の紹介
- ステップを踏んだ就労支援として、
  - 認定訓練事業
  - 職業体験実習の紹介

- 就労の条件(仕事内容、仕事量、場所、時間数、時間帯、賃金、人数、休日等)を確認し、お互いに合うと思われるところで見学など設定し同行する
- 見学がない場合、利用者には職場環境等も情報提供して、できるだけ不安を軽減して応募や面接に臨めるよう配慮する

- 認定訓練事業
- 事業所には申請方法や訓練カリキュラム作成をサポートする
- 必要と思われる利用者に訓練先事業所を紹介し検討を促す
- 職業体験実習
- 事業所に実際の利用者を体験実習で見てもらい、訓練や就労の可能性を探る



## ■ ①情報収集について～②訪問のポイント

### 求人開拓

- ◆ 無料職業紹介所を開設しており、求人開拓の営業をしている。
- ◆ 開拓のときに着目するのは、中間就労的な要素がある求人で、詳細の情報を調べてストックしておく。
- ◆ 一つには、すぐにフルタイム、正社員などは目指さない(目指せない)相談者に対し、「こんな条件、こんな働き方から始める方法もある」という選択肢を見せるため。
- ◆ もう一つは、その事業所が、条件の幅を広げることが可能かを情報収集するため。
- ◆ 「条件の緩和≡相談者の傾向に合いそう(応募する人がいそう)」であれば、求人票を作成して無料職業紹介所に登録するとともに、協力事業所になっていただく。

### 協力企業開拓

- ◆ 職業体験実習先(あるいは就労訓練先)を随時募集している。
- ◆ 求人の営業とセットでPRすることが多い。
- ◆ 「実習生はどんな人か」の傾向をお話しして、納得し受け入れていただけるか、仕事や職場の受け入れはどうかを聞き取る。その際、利用者のジョブカードのサンプルも持参し、対象者への理解を促進するよう努めている。
- ◆ 就労訓練事業への協力はハードルが高い(メリットが不明瞭?)ため、職業体験実習から入って就労訓練を考えていただくこともある。

## ■ 事前に開拓する(実習先を協力事業所から選択)

	事業所訪問のポイント
準備段階	<ul style="list-style-type: none"><li>その事業所の情報収集:<ul style="list-style-type: none"><li>⇒過去にコンタクトはあるか</li><li>⇒関連団体との関係は？</li><li>⇒<b>障害者雇用、高齢者雇用等の実績</b>(事業所が属する業界も)</li><li>⇒<b>キーマン</b>への近道はあるか</li></ul></li></ul>
初回訪問	<ul style="list-style-type: none"><li>提供する情報の準備<ul style="list-style-type: none"><li>⇒制度の説明資料、「わんすてっぷ」パンフレット</li><li>⇒過去の実績(<b>就労準備を利用しての変化</b>や職業体験実習の実績)</li><li>⇒<b>事業所や業界の実情のヒアリング</b></li></ul></li></ul>
受け入れ調整時	<ul style="list-style-type: none"><li><b>対象者の承諾を得て</b>の情報提供<ul style="list-style-type: none"><li>⇒困難な事由、対象者の希望、現在の状況</li><li>⇒受け入れ条件と本人の希望や環境とのすり合わせ</li></ul></li><li>お互いに無理をしない範囲での調整<ul style="list-style-type: none"><li>⇒<b>「まずやってみる」</b>ことの大切さの言及</li></ul></li></ul>

## ■利用者に合わせて実習先を開拓する

	事業所訪問のポイント
準備段階	<ul style="list-style-type: none"><li>• マッチングの精度の予測： ⇒その利用者は実習/訓練に何を求めているか ⇒事業内容は利用者の希望とフィットしているか ⇒最終的に「何を」事業所にプッシュするか</li></ul>
初回訪問	<ul style="list-style-type: none"><li>• 提供する情報の準備 ⇒制度の説明資料、「わんすてっぷ」パンフレット ⇒利用者の希望と現状(できている/できていない)</li><li>• 職場の雰囲気、人を観察する ⇒利用者はここにいられるだろうか？</li></ul>
受け入れ調整時	<ul style="list-style-type: none"><li>• 対象者の承諾を得ての情報提供 ⇒困難な事由、対象者の希望、現在の状況 ⇒受け入れ条件と本人の希望や環境とのすり合わせ</li><li>• お互いに無理をしない範囲での調整 ⇒「まずやってみる」ことの大切さの言及</li></ul>

## ■ 職業体験実習及び就労訓練事業の実績

「職業体験実習」とは、PSCが東日本大震災被災者対象の就労支援を行っていたときにスタートしたもので、H27以降は、就労準備支援を経るなど、主に就労へ意識が高まった利用者のステップとして実施している。

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度 (9月現在)
職業体験実習 協力事業所数	45	52	55	58
職業体験実習 実施件数	39	34	21	13
実習後に、 就労決定した者	19	15	9	4
就労訓練事業所数			3	4
就労訓練実施件数			0	1

### 就労準備支援から体験実習を通して就労へつながったケース

◆ 女性 48歳 通所7か月

中学の時に不登校になり、そのまま卒業。その後は進学も就職もせず、両親の収入で生活していた。23歳の時に母が倒れ、闘病生中は看病に努めた。

本人が45歳の時に母が亡くなり、48歳の時には父が他界した。

その後、収入がなくなり、これまでの貯蓄で生活することになるが、先の事を考え仕事をしたいという気持ちになるも、就労経験が全くない事が不安で、就職活動をはじめの一歩が踏み出せないでいた。



就労準備支援センターに通所し、様々なプログラムに参加するうちに、少しずつ自信を持つようになった。スタッフや他の利用者と話す機会が増え、冗談も言えるようになり、いつのまにかセンター内におけるムードメーカー的存在になっていた。

作業に関しては手先が器用なため細かい作業をすることを得意としており、集中し丁寧に取り組んでいた。

10日間の職業体験実習終了後、実習先の企業から声が掛かり採用に至った。

就労準備支援センター通所最終日には「両親が亡くなり孤独に苛まれていたが、就労準備支援センターに通所したことがとても意味のあることだと思った。この歳になってもやり直しがきくんだという事を身を持って体験した」と語っていた。

### 就労準備支援から職業体験実習を通して就労へつながったケース

◆ 男性 39歳 通所8か月

中学校に入学後いじめにあい、それ以降、対人関係の不安が強く、極度の緊張。高校時代も人間関係が築けず、それが苦で1年で中退。

公共交通機関利用も人の目が怖く、目的地に着くまでに幾度か下車する状態であった。

アルバイトの経験はあるが、一般就労の経験が一度もなく、10年間引きこもり、昼夜逆転の生活が続いた。

40歳目前に就職活動を開始。採用面接を受けるものの、就労経験不足がネックで不採用が続いていた。



通所開始当初は緊張による寝不足で体調不良を訴え、その後も職業体験実習が決まるなどの変化がある度に体調不良の訴えが強まる傾向があった。

しかし環境に慣れてくるにしたがい笑顔が増え、周囲との関わりも持てるようになり、遅刻も休むこともなく、様々なプログラムに参加できるようになった。作業態度は真面目で丁寧さが際立っていた。

通所して5か月目に職業体験実習を経験し、そこで得た経験や達成感により自信がついた。

通所7か月目に2か所目の職業体験実習を経験。実習前には就労準備スタッフの後押しと、丁寧なかかわりを重ねる必要があったが、実際に体験実習を行うことでさらに自信がつき、実習先が本人の希望する職種だったため実習先への就労を希望した。

実習先も求めていた人材であるとの事で実習終了後に採用を決定。

この9月で就労開始から10ヵ月が経過する。

### 事業所様からは、こんなことを言われます…

- うちギリギリの人数でやっているのに、手間がかけられない
- 自分(経営者)は協力したいが、現場の人間が対応しきれないんじゃないか
- 経営のことを考えると、「これ」っていうメリットを感じない
- あいさつぐらいちゃんとできなきゃ、仕事なんてできないよ
- もっと大企業がやるべきなんじゃないの？

みんな本当のことだと思います。しかし…

めまぐるしく変動する時代に事業を継続するためには、ヒトの確保・定着ができるか否かが、企業の存続や地域での存在価値を決める。(といっても過言ではない)



**生活困窮者の社会参加の機会の一翼を担うことは、チャレンジの第一歩となるでしょう！**

## ＜株式会社JM様との地域交流型就労訓練事業＞

仙台市生活自立・仕事相談センター  
わんすてっぷ

株式会社JM様  
仙台SC/JM社人材育成アカデミー

### アセスメント／相談／プラン

支援決定  
プランの可否  
訓練実施可否

- ・主訴に応じて課題の整理
- ・一般就労か、準備支援が必要か

### 就労準備支援センター

- ・生活自立
- ・社会自立
- ・就労自立  
に向けた準備プログラムを実施
- ・期間と目標を定めて、本人の課題への取り組みを進める

### 就労支援

定期報告  
終了報告  
課題検討  
(リプラン)  
就労報告  
等

- ・体験実習や就労訓練がプランされた者の実習/訓練先のマッチング、調整
- ・ジョブカードを活用して特性や能力の棚卸
- ・実習/訓練へ送り出す際の手続き対応
- ・実習/訓練期間中のJM社との調整及び訓練生の対応、フォロー

### A. 職業体験実習(JM社仙台営業所)

- ・5日～20日で5時間程度/日
- ・JM社へ実施運営費、実習生に奨励金、保険も含めPSCが負担

### B. 就労訓練(JM社仙台サービスセンター)

- ・仙台市認定訓練事業の枠組みで実施
- ・3か月～6か月の訓練期間
- ・非雇用型/雇用型で働き方を身に着けて就労への準備を行う

### B'. 就労訓練(JM社人材育成アカデミー)

- ・地域交流型認定訓練事業(仮・新提案)で実施
- ・2週間/1か月/3か月/6か月の訓練期間
- ・訓練は原則雇用型とし、往復旅費・滞在についてはJM社負担

支援調整会議

就 労



# 今後必要な具体的な取り組み

- ・ 訓練生は、一定の入カスキルがあることが要件だが、就労経験や実務能力は個人差があることから、このイメージ案では就労経験の少ない(あるいは失敗経験のある)若年層の対象者を想定している

## 就労訓練事業スケジュール(イメージ)



支援調整会議による訓練実施承認

訓練生のスケジュール

システム画面イメージ)



システム入力の基本習得(指導つき)  
～単独で入力、報告・確認ができる

- ・ 仕事の基本の習得(挨拶、報・連・相、職場での基本のコミュニケーション)
- ・ 出勤～退勤までの時間を守る、リズムになれる

仕事の習熟、計画性の意識を持てる

- ・ 自分の役割を認識する
- ・ 任せられた仕事を計画的にこなす
- ・ 周囲と協力して職場の一員としての自覚を持つ

中間レビュー

計画的な業務の進め方を習得する

- ・ 計画性をもって業務を進める
- ・ 外部の人に対して社員として対応できるようになる
- ・ 仕事を継続できる自信を持つ

支援調整会議による訓練成果の概括

訓練終了・総括

支援機関

- ・ わんすてっぷ同行(1～2日目)
- ・ 電話での確認、相談(～1週間、様子により)
- ・ 現場指導員との情報交換
- ・ Passo(※名古屋の障害者就労移行支援事業所)との連携確認(精神的な面や生活面のサポート等情報共有)
- ・ 1か月ごとの定期訪問(面談、生活状況等確認)

### 相談者の自己理解と受入れ企業に対するメリットを高めるJOBカードの活用

就労準備や訓練対象者に対する支援策としてJOBカードの作成支援を追加。

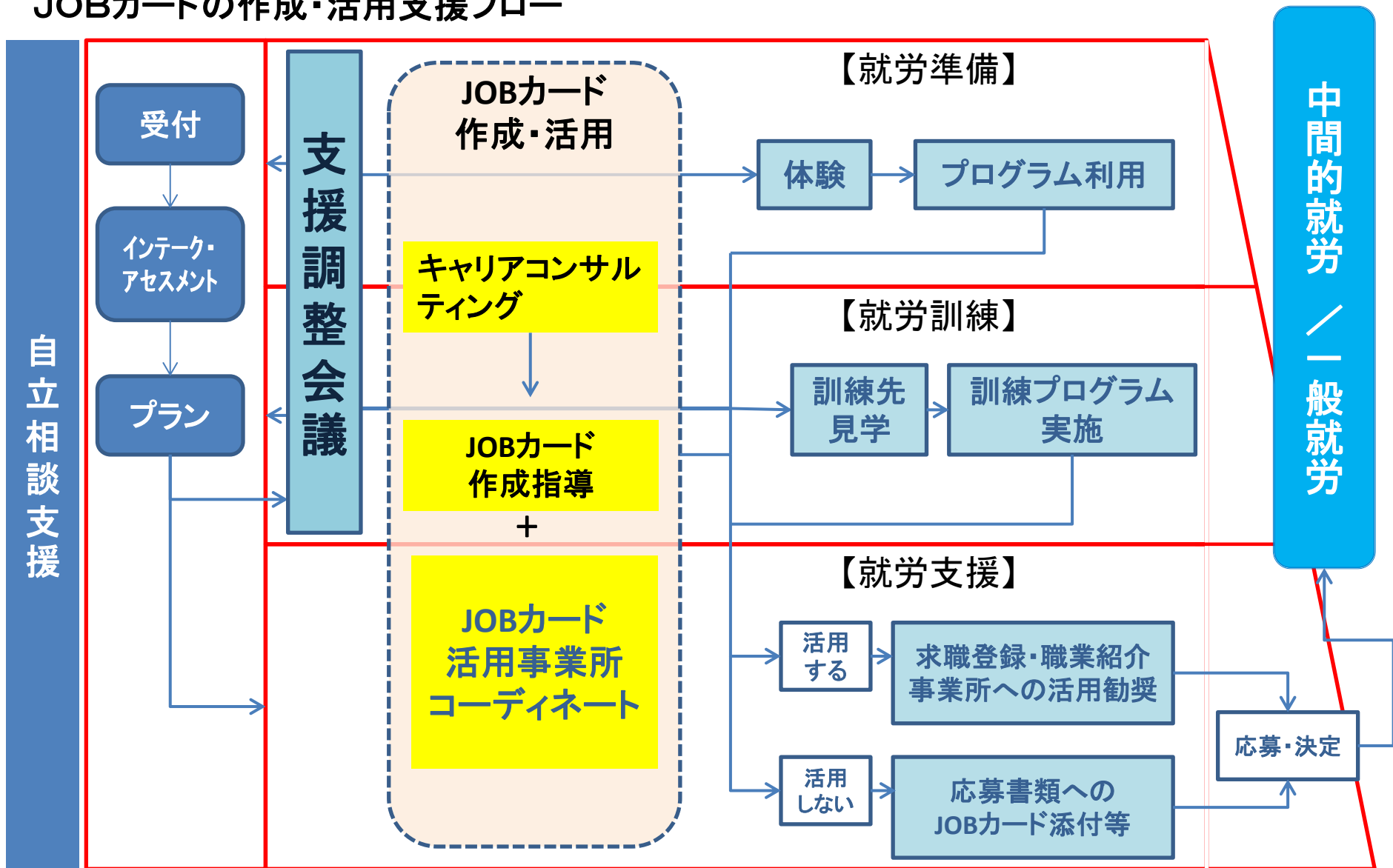
- JOBカード作成のメリット：
  - ① 相談者・・・過去の職歴・研修受講歴を振り返り自己理解を深めると共に、就労準備及び訓練で何を達成するか、補うかなどを明確にする
  - ② 支援員・・・利用者の職歴・研修受講歴などを把握し、一緒に振り返ることで、利用者の特性や適性の共有ができ、目指す就労への方向性が見えやすくなる
  
- 就労訓練事業所等でのJOBカード活用支援
  - 就労訓練先にもJOBカードを活用しながらの訓練(人材育成)をアピールし、制度活用のメリットを具体性をもって示す
  - JOBカード作成支援アプリなどツールも紹介する



JOBカードを積極的に活用することで、就労訓練事業を他の短期体験実習等と差別化し、就労に近づける人はさらに近く、まずは中間就労からの人も目指すところへのステップを明確にして、実施する意義の確立を図る。

# 相談者の自己理解と受入れ企業に対するメリットを高めるJOBカードの活用

## JOBカードの作成・活用支援フロー



## 大切にしていること

- ① 利用者の日々の変化を見逃さず、自立相談支援員と変化の情報共有を密にはかること。
- ② 受入企業等に何かしらのメリットをあたえることができるWIN・WINな関係づくり。
- ③ 『結果がすべてである』と意識すること。
- ④ 上手にストレスを発散させること。
- ⑤ 『利用者の選択肢を増やすためにはどうしたらいいか』ということを常に考え、行動にうつすこと。
- ⑥ 『他施策との連動ができないか』を常に意識すること。
- ⑦ 受入企業等に迷惑をかけてしまったときは、素直に誠心誠意あやまること。
- ⑧ いい支援をやっている地域の取り組みをまねてみるだけまねてみること。
- ⑨ 利用者が安心できる居場所でありつづけること。
- ⑩ 『あきらめない』こと。

# (大切なポイント)

## ①開拓の目的

企業開拓に際し、「情報収集・準備段階」⇒「訪問」⇒「受け入れ検討・調整」のフェーズを明確化しつつ共有。

## ②計画性

「求人開拓」「職業体験実習」「就労訓練」の事業別企業アプローチではない。企業の詳細情報を集め、ストックし、利用者に合せた求人等の条件の幅を広げることが可能か模索。

## ③専門性

企業の人材確保や企業の継続・存続また地域での存在価値といった企業目線でのアプローチ。

## ④継続性

企業や関連団体・機関とのつながりを継続⇒「地域交流型就労訓練」「JOBカード活用」新たな取組⇒企業開拓での新たなプレゼン材料にも。

# 大切なポイント

## ①開拓の目的

- ✓ 企業開拓に際し、「情報収集・準備段階」⇒「訪問」⇒「受け入れ検討・調整」のフェーズを明確化しつつ共有。

## ②計画性

- ✓ 「求人開拓」「職業体験実習」「就労訓練」の事業別企業アプローチではない。企業の詳細情報を集め、ストックし、利用者に合わせた求人等の条件の幅を広げることが可能か模索。

## ③専門性

- ✓ 企業の人材確保や企業の継続・存続また地域での存在価値といった企業目線でのアプローチ。

## ④継続性

- ✓ 企業や関連団体・機関とのつながりを継続⇒「地域交流型就労訓練」「JOBカード活用」新たな取組⇒企業開拓での新たなプレゼン材料にも。

# まとめ(1)

## ①開拓の目的と体制

○文書化・見える化

⇒手順を明確にして、内容共有

⇒相談支援と就労支援の体制

## ②計画性⇒開拓先一覧を作る

○HWやフリーペーパー等の求人情報

⇒重複している・いつも掲載されている

○企業説明会に参加した企業

⇒協力実績のある事業主登壇・アンケート

○関係機関が有する企業情報

⇒労働局が有する障害者・高齢者雇用状況報告

# まとめ(2)

## ③専門性 ⇒ 情報収集

- 利用者の詳細情報量 = 企業の詳細情報量
  - ⇒信頼関係構築とニーズ把握はどちらも同じ
  - ⇒企業支援の視点を持つことと、協力企業を得ることは困窮制度が目指す「地域づくり」

## ④継続性

- 定着支援 = 企業支援
  - ⇒良好な状態は新たな開拓につながる
- 企業・関係機関・地域活動
  - ⇒「人」とのつながり
  - ⇒「人」が「人」をつなげてくれる